

限りある資源のむだ使いはやめよう

私たちは「消費」を重視した便利で快適な生活を送り、大量にごみを出し、これに何の抵抗も感じなくなっています。このような生活様式は、「限りある資源のむだ使い」と「かけがえのない自然環境を犠牲にした汚染問題」のうえに成り立ち、「地球の温暖化」や「酸性雨」などの問題へと発展させているのです。私たちがこのまま今の使い捨ての生活様式を続けていると地球は減びてしまいます。そこで、緑の惑星といわれる地球を保護し、次の世代のためにも資源をむだに消費する生活様式を考え直さなければなりません。

**町民1人当たりが1日に出す
ごみの量は約374g**

今日、あなたはどのくらいごみを出しましたか。また、それはどんなごみ？ 私たちの生活では必ずごみが出ます。「このくらいならいいや」と思って捨てたごみも、けっしてこの地球から消えてなくなることはありません。燃やしてもその形は見えなくなっても、空気を汚してしまったり、地球になんらかの影響を与

平成4年度分の町のごみの量は1657^ト(可燃ごみ900^ト・不燃ごみ458^ト・自家搬入280^ト・不法投棄19^ト)で、これを町民1人当たりが1日に出すごみの量にすると約374gになります。なお、町のごみ処理料として、平成4年度に組合へ負担した経費は約8647万5千円でした。ごみ処理にこれだけの経費を投資しても「灰」となって消えてしまうのですから、ごみを有効利用することが大切です。



ごみの減量化を図るには大勢のみなさんの協力が必要です

「ごみってなに？」

廃棄物のことを「ごみ」と言っています。人間の生活や社会の生産活動、経済活動から出るカス、つまり、捨て去るもの、不要なもののことです。

ごみのことを定めた法律は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」で、この法律では、ごみを産業廃棄物と一般廃棄物に分けてあります。

産業廃棄物

生産や事業活動に伴って出てくるごみのうち、それが大量であるもの、あるいは処理が困難であるものとされています。

一般廃棄物

産業廃棄物以外のすべての廃棄物です。内容としては、家庭やオフィスなどから出るもので、生ごみや空き缶や紙などがあります。

町環境衛生組合が収集した